

平成 25 年 7 月 30 日	病虫害発生予報 8 月号	茨城県病虫害防除所 茨城県植物防疫協会
---------------------	-------------------------------	------------------------

平成 25 年度茨城県農薬危害防止運動期間中です (6/15～9/14)
～薬剤散布時には、農薬の飛散防止に努めましょう～

< 目 次 >

I. 今月の予報	
【注意すべき病虫害】	
水稻：いもち病(穂いもち)，斑点米カメムシ類	1
【防除所レポート】 ：斑点米カメムシ類の発生状況及び発生種について	2
水稻：ニカメイガ	2
大豆：チョウ目幼虫	3
ナシ：黒星病	3
ナシ：ナシヒメシンクイ	4
【防除所レポート】 ：積算気温によるナシヒメシンクイの防除適期の予測	4
【その他の病虫害】	5
水稻，大豆，サツマイモ，ナシ，ブドウ，果樹共通，抑制トマト，秋冬ネギ，ナス，共通害虫	
II. 今月の気象予報 6	
<p>最新の農薬登録内容は，(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm) で確認することができます。</p> <p>水田において農薬を使用するときは，農薬のラベルに記載されている止水に関する注意事項等を確認するとともに，止水期間を1週間程度とすること。</p>	
<p>詳しくは，病虫害防除所へお問い合わせ下さい。</p> <p>茨城県病虫害防除所 Tel : 029-227-2445</p> <p>予報内容は，ホームページでも詳しくご覧いただけます。</p> <p>ホームページアドレス http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/</p>	

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

水 稲

1. いもち病（穂いもち）

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並～やや早い	平年並～やや少ない	県下全域

[予報の根拠]

- ① 農研速報（7月17日、23日発行）によると、水稻の生育は平年並～やや早い。
 - ② 7月下旬現在、葉いもちの発病度¹⁾（本年値1.1、平年値6.0）、発生地点率（本年値23%、平年値57%）ともに平年より低い。
 - ③ 本年は、7月中旬以降曇雨天が続いており、穂いもちの発生が助長される条件である。
- 1) 発病度：病斑をもとに算出した数値、最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① いもち病菌がイネの穂に侵入しやすいのは、出穂直後から出穂後14日位までである。この期間に降雨が続く場合は、発生に注意が必要である。
- ② 穂いもちを対象とした薬剤防除の適期は、穂ばらみ末期～穂揃期である。葉いもちが多発し、上位葉に病斑が進展している水田では、防除を徹底する。

2. 斑点米カメムシ類

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 7月下旬現在、水田内における10回振りすくい取り虫数は平年よりやや多く（本年値0.35頭、平年値0.25頭）、発生地点率は平年より高い（本年値30%、平年値11%）。
- ② 7月下旬現在、水田内におけるクモヘリカメムシ（本県で最も大きな被害を及ぼす斑点米カメムシ）の10回振りすくい取り虫数は平年より多く（本年値0.20頭、平年値0.11頭）、発生地点率は平年より高い（本年値14%、平年値5%）。
- ③ 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か少ないと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 水田周辺のイネ科雑草は、カメムシ類の生息場所となるので除草に努める。ただし、出穂期近くになってからの除草は、カメムシ類を水田内へ追い込むことになるので、水稻の出穂期前2週間～出穂期後2週間の除草は行わない。
- ② 斑点米カメムシ類の成虫を対象とした防除適期は、穂揃期である。穂揃期に成虫を確認した場合は、防除を実施する。
- ③ 斑点米カメムシ類の幼虫を対象とした防除適期は、出穂期の10～15日後頃である。斑点米の発生を防止するためには、特にこの幼虫防除が重要である。

(水稻 斑点米カメムシ類 続き)

- ④ 収穫の遅い水田では、新成虫の飛来により8月中旬以降にカメムシ類の密度が高まることがあるので、十分に注意する。

(平成 25 年 7 月 30 日発表の「病害虫発生予察注意報第 1 号」参照)

防除所レポート [斑点米カメムシ類の発生状況及び発生種について]

- ① 水田における斑点米カメムシ類の発生量は、7 月下旬現在、県央地域で平年より多く、県北、鹿行、県南、県西地域で平年よりやや多い (表 1)。
- ② 水田における斑点米カメムシ類の発生種は、7 月下旬現在、クモヘリカメムシが最も多い。次いでアカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、イネカメムシとなっている (表 2)。

表 1 水田における斑点米カメムシ類の生息状況(平成 25 年 7 月下旬調査)

地域 (調査地点数)	発生地点率(%)			すくい取り虫数(頭/10回振り)		
	本年	平年 ¹⁾	順位 ²⁾	本年	平年 ¹⁾	順位 ²⁾
県北 (8)	25	13	2	0.13	0.12	5
県央 (15)	33	12	1	0.73	0.20	1
鹿行 (6)	33	17	2-5	0.33	0.86	4
県南 (19)	26	10	1	0.24	0.19	4
県西 (9)	33	8	1	0.17	0.19	4
全県 (57)	30	11	1	0.35	0.25	3

1) 平年：平成15～24年までの10年間の平均値を示す。

2) 順位：過去11年間における本年値の順位を示す (2-5は2位から5位まで同じ数値であることを表す)。

表 2 水田における斑点米カメムシ類の種類別生息状況(平成 25 年 7 月下旬調査)

カメムシ類の種類	発生地点率(%)			すくい取り虫数(頭/10回振り)		
	本年	平年 ¹⁾	順位 ²⁾	本年	平年 ¹⁾	順位 ²⁾
クモヘリカメムシ	14.0	4.8	1	0.20	0.10	2
ホリハカメムシ	0	1.0	5-11	0	0.01	5-11
イネカメムシ	3.5	0.8	2	0.04	0.01	2
アカスジカスミカメ	8.8	2.8	2	0.05	0.06	4
アカヒゲホソミドリカスミカメ	5.3	1.8	2	0.04	0.03	3

1) 平年：平成15～24年までの10年間の平均値を示す。

2) 順位：過去11年間における本年値の順位を示す (5-11は5位から11位まで同じ数値であることを表す)。

3. ニカメイガ (第二世代幼虫)

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 7 月下旬現在、第一世代幼虫による被害株率 (本年値 2.1%, 平年値 0.9%), 発生地点率 (本年値 19%, 平年値 10%) とともに平年よりやや高い。
- ② フェロモントラップへの越冬世代成虫の誘殺数は、水戸市及び筑西市では平年より多く、龍ヶ崎市では平年並である。

(水稻 ニカメイガ 続き)

[防除上注意すべき事項]

- ① 本虫の発生は、近年、局地的に増加している。第一世代幼虫による被害が多い水田では、第二世代幼虫を対象に薬剤防除を8月上旬～中旬に実施する。薬剤防除の際には、収穫前日数等の農薬使用基準に十分注意する。

大豆

1. チョウ目幼虫

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い～多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 7月下旬現在、25株あたりの寄生幼虫数は平年並～やや多く(本年値1.1頭、平年値0.6頭)、発生地点率は平年より高い(本年値80%、平年値28%)。
- ② 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か少ないと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 老齢幼虫になると薬剤が効きにくくなるため、圃場をよく観察し、若齢幼虫のうちに防除を行う。
- ② ハスモンヨトウでは、白変葉(若齢幼虫の集団加害によって白く透けた葉)の発生を防除の目安とする。
- ③ 薬剤散布の際は、葉裏や株元にも薬剤がかかるように丁寧に行う。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるために、系統の同じ薬剤は連用しない。

(平成25年7月30日発表 病害虫速報No.4参照)

ナシ

1. 黒星病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや少ない	県下全域

[予報の根拠]

- ① 7月下旬現在、発病葉率は平年並(本年値0.6%、平年値0.7%)、発病果率は平年よりやや少ない(本年値0.2%、平年値0.7%)。
- ② 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か少ないと予想され、発生を助長する条件ではない。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発病した果実及び葉は二次伝染源となるため、見つけ次第除去し、土中深く埋める等、適切に処分する。
- ② 薬剤防除を行う場合は、収穫前日数等の農薬使用基準に十分注意する。

2. ナシヒメシンクイ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並～やや早い	平年並	県下全域

[予報の根拠]

- ① 7月下旬現在、次世代成虫（第三世代）の発生時期は、第二世代成虫のフェロモントラップへの誘殺最盛期と発育に有効な気温の積算値から、平年並～やや早いと予測できる。
- ② 7月下旬現在、フェロモントラップへの第二世代成虫の誘殺数は、かすみがうら市で平年より多く、小美玉市では平年並、笠間市及び土浦市では平年よりやや少ない。
- ③ 7月下旬現在、被害果率は平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 被害果を見つけた場合は、土中深く埋める等速やかに処分し、次世代成虫の発生を防ぐ。
- ② 薬剤は、10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。
- ③ 薬剤防除の際には、収穫前日数等の農薬使用基準に十分注意する。
- ④ 早生品種（「幸水」等）で被害が認められた場合は、晩生品種（「豊水」や「新高」等）で被害が多くなる傾向があるので注意する。

防除所レポート [積算気温によるナシヒメシンクイの防除適期の予測]

- ① ナシヒメシンクイ第四世代幼虫を対象とした防除適期は、**第三世代成虫の誘殺数が最高に達した日の直後**である。
- ② 各地点の第三世代成虫の誘殺最盛期は、第二世代成虫のフェロモントラップへの誘殺最盛期と発育に有効な気温の積算値から、表のように予測できる。
- ③ 第四世代幼虫の防除適期は第三世代成虫の誘殺最盛期の直後なので、表の予測日を参考に適期防除を行う。
- ④ 発生時期の予測は7月29日現在である。

表 ナシヒメシンクイ第三世代成虫の予測誘殺最盛期

地点	第二世代成虫の	第三世代成虫の
	誘殺最盛期 ¹⁾	予測される誘殺最盛期 ²⁾
笠間市（旧友部町）	7月第3半旬	8月8日～8月12日
笠間市（旧岩間町）	7月第5半旬	8月17日～8月20日
小美玉市	7月第4半旬	8月14日～8月17日
かすみがうら市	7月第3半旬	8月8日～8月12日
土浦市	7月第3半旬	8月8日～8月12日
筑西市	7月第3半旬	8月8日～8月11日

1) 各地点に設置したフェロモントラップへのナシヒメシンクイ第二世代成虫の誘殺最盛期。

2) ナシヒメシンクイの発育零点を11.1℃とし、第二世代成虫の誘殺最盛期からの有効積算温度が384日度となる日を予測した（7月29日現在）。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
水稲	イネツトムシ	発生量：平年並	7月下旬現在，平年並の発生である。葉色が濃い水田では発生に注意する。発生が多い場合には，できるだけ早く薬剤防除を実施する。
大豆	紫斑病	発生量：－	防除適期は開花期の20日後頃である。開花期以降から成熟期までに連続した降雨があると，発生が多くなるので注意する。
	カメムシ類	発生量：平年並	7月下旬現在，平年並の発生である。
イモ サツマ	チョウ目幼虫	発生量：平年並	7月下旬現在，平年並の発生である。
ナシ	ハダニ類	発生量：平年並	7月下旬現在，平年並の発生である。
ブドウ	べと病	発生量：やや多い	7月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	褐斑病	発生量：平年並	7月下旬現在，平年並の発生である。
共通 果樹	カメムシ類	発生量：やや少ない	7月下旬現在，平年よりやや少ない発生である。
トマト 抑制	黄化葉巻病	発生量：－	媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。発病株はただちに抜き取り適切に処分する。
秋冬 ネギ	ネギアザミウマ	発生量：やや多い	7月下旬現在，夏ネギにおける発生は平年よりやや多い。
	ネギハモグリバエ	発生量：平年並	7月下旬現在，夏ネギにおける発生は平年並である。
ナス	ハダニ類	発生量：やや多い ～多い	7月下旬現在，平年よりやや多い～多い発生である。
共通 害虫	オオタバコガ	発生量：平年並 ～やや多い	7月下旬現在，フェロモントラップへの誘殺数は水戸市で平年より多く，土浦市・龍ヶ崎市・筑西市で平年並である。気象予報によると，向こう1か月の気温は平年並か高く，降水量は平年並か少ないと予想され，発生を助長する条件である。
	ハスモンヨトウ	発生量：平年並 ～やや多い	7月下旬現在，フェロモントラップへの誘殺数は水戸市・笠間市・銚田市・土浦市・龍ヶ崎市・筑西市で平年並である。気象予報によると，向こう1か月の気温は平年並か高く，降水量は平年並か少ないと予想され，発生を助長する条件である。

Ⅱ. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 7月27日から8月26日)

気象庁(7月26日 発表)

<特に注意を要する事項>

少なくとも期間の前半は、少雨の状態が続く見込みです。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	20	40	40
降水量	関東甲信全域	40	40	20
日照時間	関東甲信全域	20	40	40

[概要]

期間のはじめは、平年に比べ晴れの日がすくないでしょう。その後は、平年に比べ晴れの日が多い見込みです。

<1週目の予報> 7月27日(土曜日)から8月2日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率50%

<2週目の予報> 8月3日(土曜日)から8月9日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率40%

<3週目から4週目の予報> 8月10日(土曜日)から8月23日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず、良く洗浄しましょう。